

## 令和 2 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

校訓「つくろう あすへの わ」(和・心と体の調和、輪・仲間とのつながり、我・自分らしさの三つの「わ」)を大切にしながら、「未来をいきる主人公を育てる」ことを学校教育目標とし、新たなニーズに対応する支援教育を発信できる学校「未来志向型支援学校」をめざす。

- 1 「一人ひとりを大切にし、将来に向けたステップを作る学校」
- 2 「自ら前向きに変わっていかうとする力を持つ学校」
- 3 「関係機関と連携し、地域に根づく学校」

### 2 中期的目標

#### 1 児童生徒一人ひとりの将来を見すえた教育活動の推進

- (1) 教育実践マトリクス(本校独自の教育実践指標)、個別の教育支援計画、シラバス(年間授業計画)、個別の指導計画、指導略案を連動させ、保護者・教員ともに活用しやすい様式の検討と整備。
- (2) 新学習指導要領に対応した各学部の教育課程の見直しと実施。
- (3) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた自立活動の充実。
- (4) 各学部で実施しているキャリア教育を全校一貫として実施。

#### 2 安心安全な学校づくり

- (1) 防災計画の充実(BCPの確認周知、備蓄用品の充実、マチコミメールの登録活用90%以上、保護者・地域との連携協力、防災研修)。
- (2) 全学部・学年での防災教育の計画的な指導。
- (3) 児童生徒の人権を守り、教職員が互いに理解し協力しあえる関係構築(人権研修、連絡会や会議での情報共有・意見交換)。
- (4) 性に関する学習の全校レベルでの計画・実施。

#### 3 専門性、指導力の向上による支援教育のプロフェッショナル集団づくり

- (1) 経験の少ない教職員の教育力育成、中堅層・ベテラン層の指導力・伝達力の向上(メンター制、チューター制、校内研修、外部研修)。
- (2) 教職員が力を発揮しやすく、業務の効率化が図れる学校運営の組織改編。
- (3) 教材室、教材データベース、ICT機器の整備とそれらを活用した授業力向上。
- (4) 授業力セルフチェック、公開授業、意見交換会を実施。

#### 4 発信する、連携する、ともに作り上げるネットワークづくり

- (1) 地域支援室の充実と積極的な活用による校内および地域の支援教育の向上。
- (2) 地域リソースを活用した教育活動による、児童生徒の社会参加・社会貢献意識の向上。
- (3) 交流によるクラス・学年・学部・学校内にとらわれない人間関係づくり。
- (4) 学校情報発信力の向上。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和 年 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 保護者肯定率:保と略 教員肯定率:教と略	自己評価
<p>1 児童生徒一人ひとりの将来を見すえた教育活動の推進</p>	<p>(1) 教育実践マトリクス (本校独自の教育実践指標)、個別の教育支援計画、シラバス(年間授業計画)、個別の指導計画、指導略案を連動させ、保護者・教員ともに活用しやすい様式の検討と整備。</p> <p>(2) 新学習指導要領に対応した各学部の教育課程の見直しと実施。</p> <p>(3) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた自立活動の充実。</p> <p>(4) 各学部で実施しているキャリア教育を全校一貫として実施。</p>	<p>(1) マトリクスの全学部活用実施や新シラバスに基づく授業実施で見える課題の洗い出しを教員アンケートで意見集約する。 実施スケジュールに合わせて次年度に向けた改訂を行う。 連動させたそれぞれの様式の見直しを行う。</p> <p>(2) 各学部で各授業の時間配分、自立活動の時間設定を見直し、試行を経て実施する。</p> <p>(3) 自立活動の6区分27項目のうち個別のニーズに合わせた目標と指導内容を明確にし、評価ができるガイドラインを作成する。</p> <p>(4) 各学部でキャリアコーディネーターを置き、シラバスにあるキャリア教育の観点を各学部・学年でおさえることで全教員のキャリア教育への意識を高め、教科横断的に実施する。 にしうらしえんマルシェの取組みを通して小・中・高が交流できる内容を検討する。</p>	<p>(1) ア.それぞれの様式を連動させたシステムの完成。 イ.「教育実践マトリクスを活用し教員と児童生徒に関する共通理解ができている」保 70%以上(H29 50%, H30 52%, R1 68%) 教 50%以上(H29 47%, H30 44%, R1 39%) ウ.「シラバス、指導案、授業記録を蓄積し常に授業改善に取り組んでいる」で 教 5%向上(H29 68%, H30 74%, R1 70%)</p> <p>(2) ア.小学部での新教育課程の実施と検証。 イ.中学部での教育課程を見直し、3学期試行の実施。</p> <p>(3) 自立活動チェックシートの全校での活用。「学校は子どもの障がいについてよく理解している」保 90%以上(H29 80%, H30 80%, R1 88%) 「自立活動の指導にあたっては児童生徒が興味をもって主体的に取り組めるように工夫されている」教 80%以上(H29 86%, H30 82%, R1 73%)</p> <p>(4) 小中高一貫性のあるキャリア教育が行われている」教 5%向上(H29 46%, H30 50%, R1 50%)</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 安心安全な学校づくり</p>	<p>( 1 ) 防災計画の充実 ( BCP の確認周知、備蓄用品の充実、マチコミメールの登録活用、保護者・地域との連携協力、防災研修 )。</p> <p>( 2 ) 全学部・学年での防災教育の計画的な指導。</p> <p>( 3 ) 児童生徒の人権を守り、教職員が互いに理解し協力しあえる関係構築 ( 人権研修、連絡会や会議での情報共有・意見交換 )。</p> <p>( 4 ) 性に関する学習の全校レベルでの計画・実施。</p>	<p>( 1 ) BCP を防災研修等で周知徹底する。備蓄用品のチェックを行い計画的に補充し必要なものを PTA と協力して購入する。 緊急時の薬の管理についてのガイドラインを作成する。 特別な事情がある人以外は教職員・保護者ともマチコミメールに登録する。 保護者や地域と連携した防災訓練や研修を行う。</p> <p>( 2 ) 各学部または学年で事前告知なしの避難訓練や賞味期限が来そうな備蓄用品を活用した防災学習を実施する。</p> <p>( 3 ) 悉皆人権研修を外部講師を招聘して実施する。 児童生徒との具体的ななかかわりを教員間で共有する。 首席、部主事、学年主任による情報収集を逐一行い、教員間の情報共有を連絡会でスピーディに行う。 首席連絡会、学年主任会、分掌長会を活性化させ、素早かつ確な対応を行う。</p> <p>( 4 ) PT を中心に昨年度の実践に加え、次の学年、学部につなげることを意識した学習内容を検討し実施する。</p>	<p>( 1 ) 学校から地震や台風などの場合の対応について児童生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」保 95%以上 (H29 82%, H30 91%, R1 92%) 「防災マニュアルや緊急時の体制は整っている」教 85%以上 (H29 83%, H30 90%, R1 84%) マチコミメール登録 90%以上 (R1 78%)</p> <p>( 2 ) 学校は防災に関する訓練や防災学習を行っている」保 95%以上維持 (H29 53%, H30 65%, R1 96%)。</p> <p>( 3 ) ア. 人権研修 3 回実施。 イ. 「児童生徒の人権を尊重し日常の教育活動を行っている」教 90%以上 (H29 92%, H30 90%, R1 80%) ウ. 「先生は子どものことを大切にしている」保 95%以上維持 (R1 95%) エ. 「学校は日常の教育活動において子どもの人権を十分に尊重している」保 85%以上 (H29 68%, H30 82%, R1 82%)</p> <p>( 4 ) 各学部での実践のまとめを基本に、学校全体での指導計画を 1 学期に立案し実施。</p>
---	--	---	---

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 専門性 指導力の向上による支援教育のプロフェッショナル集団づくり</p>	<p>(1) 経験の少ない教職員の教育力育成、中堅層・ベテラン層の指導力・伝達力の向上 (メンター制、チューター制、校内研修、外部研修)</p> <p>(2) 教職員が力を発揮しやすく、業務の効率化を図れる学校運営の組織改編。</p> <p>(3) 教材室の整備、教材データベースの活用、ICT 機器の整備とそれらを活用した授業力向上。</p> <p>(4) 授業力セルフチェック、公開授業、意見交換会を実施。</p>	<p>(1) ベテラン教員からの指導の機会を作るためメンター、チューター会議、初任者の振り返り会を定例化する。 校内研修を充実させ、学びの機会を増やす。中堅層が積極的に外部研修に参加し、校内に伝達する機会を作る。 模範的な授業を公開授業月間で紹介し積極的に公開する。</p> <p>(2) 校務分掌を改編し、教員一人一人が力を発揮できるチームづくりをする。 校務分掌、首席、部主事、PT の業務を見直し、整理する。 時間短縮のためメール配信やスライド掲示、教員向け校長准校長だよりの発行により伝達を行い、会議の効率化を図る。</p> <p>(3) 教材室の整備を行い、不十分な教材教具のチェックをし、充実させる。 教材データベースを登録しやすく工夫し活発に使用できるよう教材を登録する。 ICT 機器の活用状況や、活用した授業を学校だよりや校長・准校長だよりで紹介し推奨して利用度を高める。</p> <p>(4) 授業力セルフチェックシートを活用した取組みを研究紀要にまとめる。 他の教員の授業を見学できる公開授業を全校で実施し、学部を越えた意見交換会を行う。</p>	<p>(1) 初任者振り返り会を年3回実施。「メンター制など人材育成に関する校内支援体制ができている」教 60%以上 (H29 58%, H30 52%, R1 58%) 「校内研修組織が確立し専門性向上のための研修が計画的に実施されている」教 70%以上 (H29 78%, H29 76%, R1 68%) 全国でも先進的な取り組みを行っている学校の研修会等に積極的に参加し校内に伝達する。「研修・研究に参加した成果を他の教職員に伝える機会が設けられている」教 70%以上 (H29 49%, H30 77%, R1 61%) 公開授業月間年2回実施、教員向け校長准校長だよりで模範的な授業紹介を行う。</p> <p>(2) 校務分掌改編を行い、業務内容の検証を行う。 「学校運営に教職員の意見が反映されている」「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担、連携、機能している」教 10%上昇 (H29 46%, H30 49%, R1 41%) 教員向け校長准校長だより月1回発行 (R1 12回)。</p> <p>(3) 先進的な取り組みや児童生徒の状況に最適な授業展開ができるように、教材・環境が整っている」教 5%上昇 (H29 43%, H30 47%, R1 43%) 教材データベースへの登録教員 1人1つ以上。</p> <p>(4) 研究紀要の発行。 全校公開授業日を年間1回実施。 「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」教 60%以上 (H29 72%, H30 75%, R1 53%)</p>
---	---	--	---

<p>4 発信する、連携する、ともに作り上げるネットワークづくり</p>	<p>( 1 )地域支援室の充実と積極的な活用による校内および地域の支援教育の向上。</p> <p>( 2 )地域リソースを活用した教育活動による、児童生徒の社会参加・社会貢献意識の向上。</p> <p>( 3 )交流によるクラス・学年・学部・学校内にとらわれない人間関係づくり。</p> <p>( 4 )学校情報発信力の向上。</p>	<p>( 1 ) 地域支援事業南河内ブロック推進校として2年目を迎え、地域の窓口として来校・訪問相談を積極的に受けていく。 リーディングスタッフ、コーディネーター以外の教員も人材育成のため校内支援相談を担当し、外部で活躍できるスキルを高める。 ベテランと経験の浅い教員で訪問相談を行い、現場で学ぶ体制を作ることによって地域支援を担える担当者を増やす。</p> <p>( 2 )地域の住民とのつながりを重視し、販売活動、ポスティング活動、介護施設への訪問演奏、学校周辺の施設の利用を積極的に行う。</p> <p>( 3 ) 姉妹学級、異文化交流、地域校園との交流および共同学習、学校サポーター、ボランティアとの交流を充実させ、さらに新たな交流先を開拓し活動に組み入れる。 児童生徒主体の取組み、学部を越えて協力する取組みを実施する。 児童生徒会便りやホームページで児童生徒会活動の様子を発信する。</p> <p>( 4 ) ホームページを見やすく親しみやすく改訂する。 学校からの情報量を増やす。学校だより、校長准校長だよりを発行する。</p>	<p>( 1 ) 来校・訪問相談年間 100 件以上実施。(R 1 95 回) 校内支援相談(ケース会議)を年間のべ 60 回実施。(R 1 58 回)</p> <p>( 2 ) 学校は児童生徒が社会の一員や役割を意識できる教育活動を行っている」保 75%以上(H29 37%, H30 61%, R 1 74%)</p> <p>( 3 ) 学校は子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている」各行事や式などにおいて児童生徒会が活動する場面がある」保 65%以上(H29 36%, H30 39%, R 1 62%)</p> <p>( 4 ) ア.「学校はホームページなどの活用も含め、教育情報について提供の努力をしている」保 70%以上(H29 50%, H30 52%, R 1 68%) イ.「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」保 80%以上(H29 81%, H30 81%, R 1 76%) ウ.校長准校長だより月 1 回以上発行 (R 1 12 回)</p>
--	--	---	--